

## 第1回 野々市市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

【日 時】 令和 3 年 1 月 21 日（木） 午前 10 時～12 時

【場 所】 野々市市役所 2 F 201 会議室

【出席委員】（○印：委員長）

○ 金沢工業大学	教 授	蜂谷 俊雄
石川県立大学	教 授	一恩 英二
野々市市農業委員会	会 長	佛田 利弘
野々市市商工会	副 会 長	西村 一正
野々市市女性協議会	会 長	澤村 昭子
野々市市連合町内会	会 長	山岸 富明
石川県土木部都市計画課	課 長	浅井 豊弘
野々市市	副 市 長	山口 良

【事 務 局】

野々市市土木部	部 長	北川 勝
野々市市土木部都市計画課	課 長	中藪 孝志
野々市市土木部都市計画課	課長補佐	石畝 朋宏
野々市市土木部都市計画課	課長補佐	本吉 信弥
野々市市土木部都市計画課	係 長	前川 和寛
野々市市土木部都市計画課	主 査	山下 泰士
野々市市土木部都市計画課	技 師	船山 晃司

株式会社国土開発センター 見附、大林、中宮

敬称略

## (1) 都市計画マスタープランの見直しとスケジュールについて

- ・都市計画マスタープランは、市街化調整区域も含む市全域を対象とした計画であるか。  
⇒市全域を対象とした計画。市内における農振地域、市街化調整区域の範囲については、農業振興地域整備計画等との調整をしながら策定をしていく。(事務局回答)

## (2) 現況の整理及び課題について

- ・本町地区の具体的な施策がない状況であり、早急に計画が必要である。景観特区として、条例に定めることはすぐにできる。
- ・金沢工業大学では、コミュニティ道路などオープンスペースの確保や緑化の取り組みをしており、×の評価ではないのではないかと。完了しているので、削除でもよい。
- ・自転車専用道路のネットワーク化について、具体的な計画を進めるべきである。
- ・自然空間の取り組みは行っていないのか。県の事業は生物調査等の環境配慮を行っており、国や県の指針を参考に取る必要がある。  
⇒市全体では、今現在、大きな河川の改修などの事業は行っていないが、小さな河川の改修や修繕的なことは建設課が担当で行っている。そこに環境配慮の視点はあまりないと思われる。(事務局回答)
- ・県立大学でも緑化の取り組みを行っている。
- ・歩行者や自動車を優先したみちづくりについて、県立大学では歩行者専用道路を整備しており、×の評価までしなくてもよい。
- ・ハザードマップ(1000年確率)について、10年や20年の計画はないのか。市街地の水害に対する計画が必要である。  
⇒小規模な開発などにつきましては、市の雨水排水協議の指導要綱があり、そこで協議して必要量を確保するような方法を取っている。区画整理の中についても、各区画整理では調整池を設けて、雨水を貯留するような調整池は各地区で造っている。(事務局回答)。
- ・公園やグラウンドが調整池になっている事例がある。野々市市は調整地単体の機能が散見される。二次利用など複合的な考え方が必要である。
- ・市の財政が厳しいことを踏まえると、これからは新しく整備するよりも既存施設の管理が重要である。
- ・旧集落では将来、空き家が増加することが想定される。民間施設や学童等への利活用など、空き家の問題を解決する必要がある。
- ・本町地区について、道路が狭い、公園が少ない、空き家があるなどの課題があり、活性化に向けた取り組みが必要である。
- ・本町地区には産業が少ないため、活性化に向けての取り組みが必要である。
- ・体育館やプールなどの建物が老朽化している。高齢化も進行する。施設そのものの方針は示さないのか。安全・安心な施設について検討が必要である。
- ・コロナ禍による都市構造の変化により、従来の発想では対応できないと考えている。市民の生活のマインドの変容も考えられる。
- ・SDGsについては計画にどのように反映するか検討が必要である。
- ・各課ヒアリングの結果をみると、リスク関連、グリーン関連の実施が十分ではない。

- ・日本はグリーンリカバリー戦略やDX（デジタルトランスフォーメーション）が遅れている。最近ではGX（グリーントランスフォーメーション）やカーボンゼロも重要視されている。これらを前提とした計画とするべきである。
- ・市役所から上林の片側1車線道路の渋滞解消が必要である。
- ・市街化区域内の約100haの農地をどのように活用するか検討する必要がある。
- ・七ヶ用水の幹線水路の支線水路の維持管理について、国有地であるのに農家がお金を出しているのはおかしい。
- ・末松の土水路は自己負担が多いため、行政の支援が必要である。
- ・北国街道の病院跡地に1m程度の雑草が生えている。北国街道に関する取り組みを実行できないのであれば、計画から削除すればよい。
- ・農地としては、隣接する大学の木の落ち葉が迷惑である。農地として緑の空間はある。
- ・町内会の集会はズーム配信で行っている。公民館と行政との関係を考えるべきである。公民館で住民票がプリントできるなど。
- ・集落の人口は減少しており、水路の管理など集落機能が維持できなくなる。集落にも居住できることが必要である。
- ・市街化区域内の農地を調整池として活用することを検討してはどうか。（水没の補償も必要）

### （3）市民アンケートの内容について

- ・問3の設問について、「当てはまる番号を全て選んで○をつけてください。」となっているが、その他の設問と同様に○の数を限定してはどうか。
- ・アンケートについて、理想的には人口の10%程度の回答数が必要であると考えている。
- ・問1④家族構成は、10年後などにどうなっているかがポイントである。
- ・問1⑤居住地区は、旧集落に住んでいるか否かも把握する必要がある。
- ・問1⑨通勤・通学の主な交通手段は、状況によって異なる場合があるのではないかと。（車やバイク、電車など）
- ・問2の生活環境の満足度について、農地のことも触れるべきである。農振地域がこれだけあることについてどういう評価であるか把握するべき。
- ・問10の農地について、農地で生産される農産物と地域の自給の関係について把握できる内容として欲しい。
- ・問15の緑の満足度と農地との関係を把握できる内容として欲しい。
- ・問16の緑のまちづくり、問17の景観形成と農地との関係を把握できる内容として欲しい。
- ・問18の安心・安全なまちづくりについて、災害時における調整池や避難地としての機能を法人に対して求めるのか。市街化区域内の農地を転用するのが良いかの意向を把握できる内容を可能であれば追加して欲しい。

以上